

「准看護師研修会」

「各々の看護場面での看取りケア:終末期のフィジカルアセスメントと家族への心理的支援」

令和元年 8 月 3 日、看護協会研修会館にて看護師職能 I 委員会主催の准看護師研修会が行われ、42 名の参加がありました。

今回は「看取りケア」をテーマに終末期のフィジカルアセスメントと、終末期にある患者と家族への心理的支援について講義が行われました。講師は南風病院の、緩和ケア認定看護師 真上美千子先生と友重真澄先生をお迎えしました。友重先生には、終末期の患者ケアに必要な観察ポイントと、フィジカルアセスメントについてお話頂きました。看取り期の主な身体症状・日常生活動作の障害とそのケアについて緩和ケア病棟での実践例を交えてお話頂きました。



真上先生には、終末期にある患者と家族への心理的支援についてお話頂きました。終末期にある患者の家族のニーズと臨終までの家族ケアで大切なことについて、先生の日ごろの実践を交えながら話頂き、看取りの場面を思い浮かべながら学ぶことができました。また私たち各々が直面する看護場面で明日から活かせる内容でした。

進学支援では、鹿児島中央看護専門学校 2 年課程（通信制）看護科の指宿先生より学校概要と具体的なカリキュラム等の説明がありました。

その後、2 年間の学校を終了された体験者の方から、自身の進学の動機と、仕事と学校と家庭をどのように両立できたかについて紹介して頂きました。家族や職場の先輩の支援や学校の先生方からの手厚いサポート体制があったことがそれらを乗り越えられた要因であることを話されました。無事卒業して国家資格を得られた喜びと、「これがゴールではなくこれからの看護のスタートだと気づいた」という言葉が印象に残りました。